

台湾（台北市，高雄市）の現地調査記録

国立台北大学の研究者：2018年3月11日実施

台湾は鴻海精密工業や TSMC 等の電子部品および電子製品組み立てに関する世界的な企業が育ってきている。こうした電子工業は欧米や日本などから PC 等の委託加工を受けながらノウハウを蓄積してきたものである。特に日本がバブル崩壊以降のリストラクチャー局面において多くの優秀な技術者を退職させたため、彼らが台湾企業そして韓国企業でその力を活かしたモノである。

しかし、今では台湾の優秀な技術者や大学卒業者が中国大陸の企業や中国大陸と大きな取引のある台湾企業に就職を希望するようになってきている。この結果、台湾の技術がさらに大陸の中国企業に流れつつある。今後、台湾の電子業界の競争力は相対的に低下していくと考えている。

メコン地域、特にベトナムとの取引や直接投資も盛んになってきているがやはり規模的に中国大陸との取引が大きく、台湾の経済成長に欠かせない要素となっている。日本企業の中には台湾企業と提携して中国や東南アジア市場に展開しようとしているところもあるが、大卒者のなかでそうした日本関連のビジネスでキャリアを積もうとするものは「上の中」以下の層であって、「上の上」の層ではない。もちろん、台湾には多くの日本企業が、特にサービス分野で多くの日本企業が進出しており、就職を希望する大卒者にとっては魅力のある就職先の一つとなっているのは確かである。

国立中山大学：2018年3月12日実施

東アジアにおける日本企業、台湾企業の現状について意見交換を行った。さらに、当方からメコン地域で行っている本プロジェクトの成果を説明し、「台湾企業のメコン地域での展開と日本企業との提携可能性について」の共同シンポジウムを提案した。

中山大学とは2018年12月に中山大学キャンパスで実施との案で一旦合意を得たが、後日、「他のシンポジウムと日程が重なってしまい、研究スタッフや事務スタッフが手当てできない」との理由で中山大学側からキャンセルの要請があった。